

第2章 町の現状と将来推計

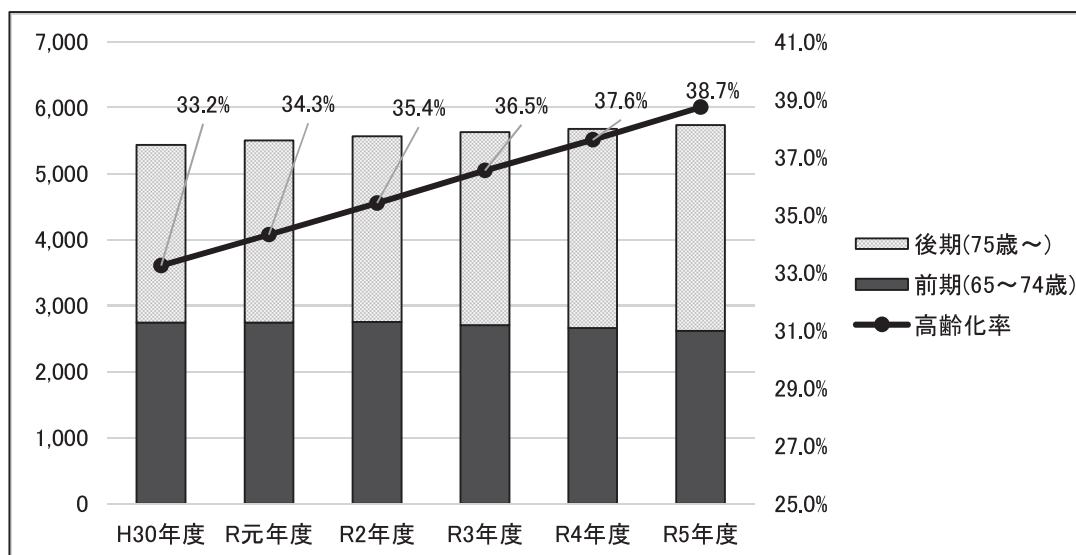
- 1 高齢者等の現況と推計
- 2 各種調査結果から見える地域課題

1 高齢者等の現況と推計

(1) 高齢者の人口動向と推計

令和2年10月現在の本町の総人口は15,718人で、総人口が減少しており、それに伴い生産年齢人口やその割合も減少している一方で、高齢化率は上昇しています。

また75歳以上の後期高齢者も2040年をピークとして上昇を続けていく見込みです。



(単位：人)

計画期	第7期			第8期		
	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
65歳以上人口	5,432	5,501	5,565	5,631	5,680	5,733
前期(65~74歳)	2,741	2,741	2,748	2,708	2,662	2,617
後期(75歳~)	2,691	2,760	2,817	2,923	3,018	3,116
推計総人口	16,342	16,031	15,718	15,413	15,109	14,804
高齢化率	33.2%	34.3%	35.4%	36.5%	37.6%	38.7%

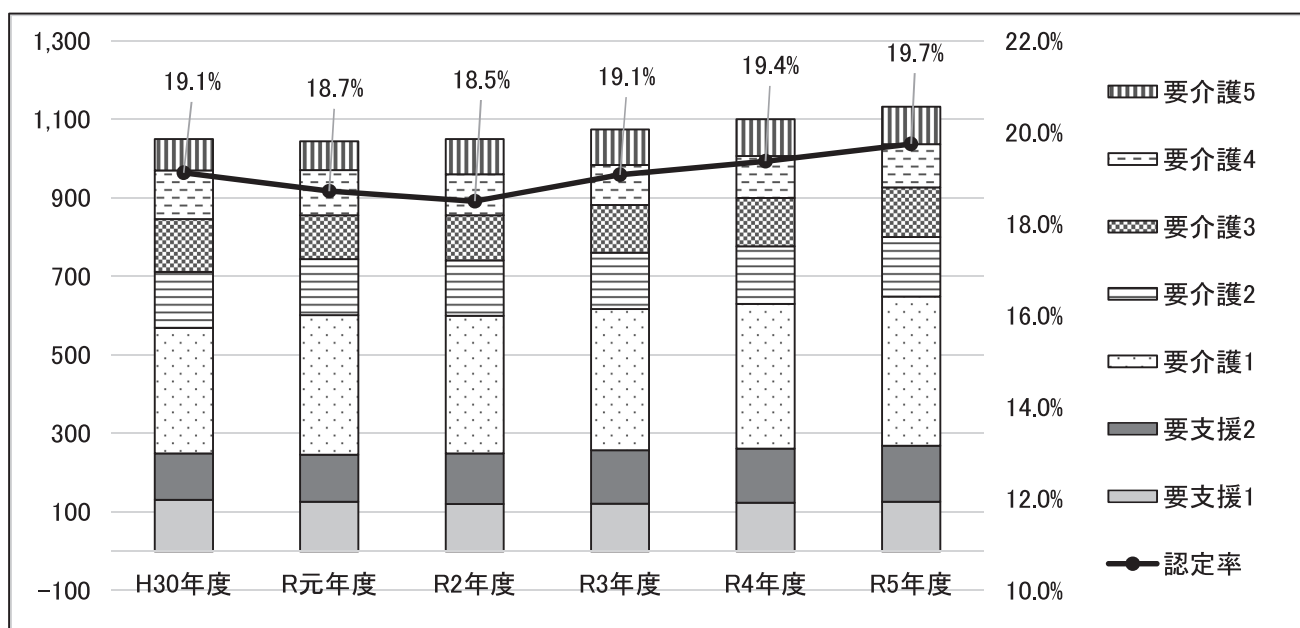
資料：『見える化システム』（平成30年～令和2年は実績値、令和3年～5年は推計値）

見える化システムとは：

厚生労働省が運営している、介護計画の策定・実行を総合的に支援するための情報システムです。介護保険に関する情報（高齢者の人数・認定者数・介護給付費など）を集め、一元化し、グラフ等見やすい形で提供されるものです。

(2) 要介護（要支援）認定者等の状況

認定者数は、微増で推移しています。令和元年度・2年度の認定率は減少しましたが、今後は高齢者の増加に合わせて認定者数も増え、認定率も増加する見込みです。



資料：『見える化システム』（平成30年～令和2年は実績値、令和3年～5年は推計値）

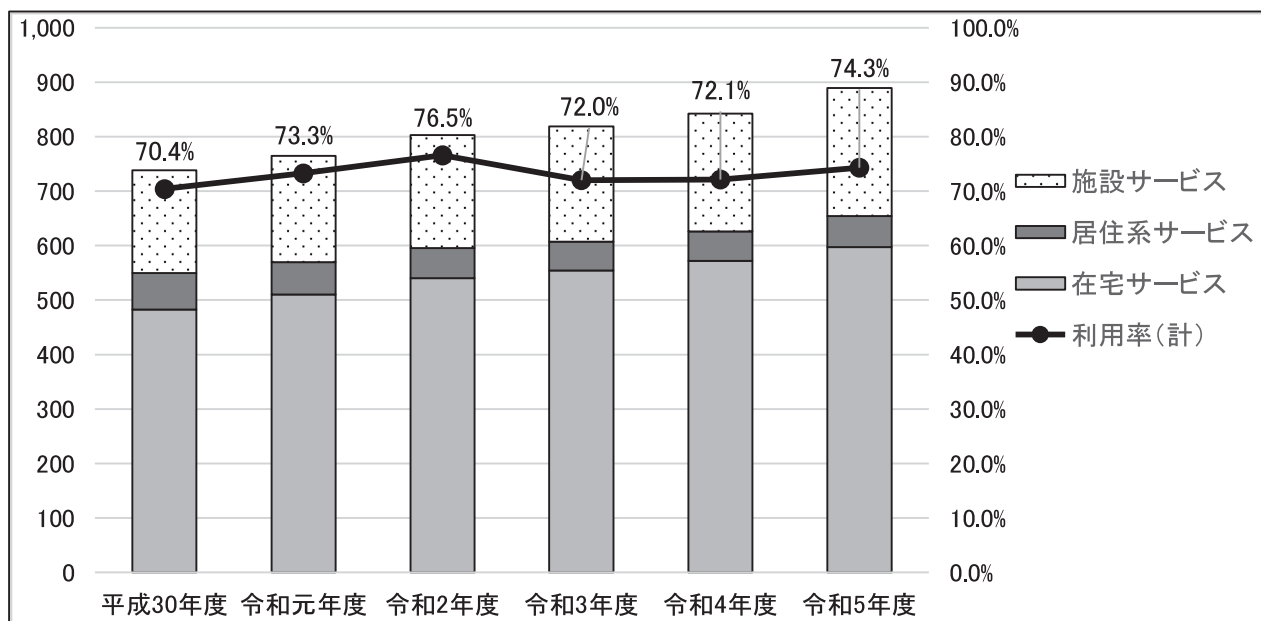
※認定率：第1号被保険者（高齢者）のうち、認定者の占める割合

(単位：人)

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
要支援1	131	125	120	121	123	125
要支援2	118	121	129	136	138	143
要介護1	320	355	351	360	369	380
要介護2	142	143	141	143	146	152
要介護3	135	112	115	121	124	127
要介護4	124	115	104	103	106	109
要介護5	79	73	89	90	94	96
要支援者 (計)	249	246	249	257	261	268
要介護者 (計)	800	798	800	817	839	864
認定者数 (総数)	1,049	1,044	1,049	1,074	1,100	1,132
認定率	19.1%	18.7%	18.5%	19.1%	19.4%	19.7%

(3) 介護サービス受給者数の動向

令和2年10月末現在の介護サービス利用者数は、在宅サービスが540人、居住系サービスが55人、施設サービスは208人、サービス利用率は76.5%となっています。



資料：『見える化システム』（平成30年～令和2年は実績値、令和3年～5年は推計値）

(単位：人)

	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
サービス利用者 (計)	738	765	803	819	842	889
在宅サービス	483	510	540	554	572	597
居住系サービス	67	59	55	53	54	57
施設サービス	189	196	208	212	216	235

利用率 (計)	70.4%	73.3%	76.5%	72.0%	72.1%	74.3%
在宅サービス	46.0%	48.8%	51.5%	48.7%	49.0%	49.9%
居住系サービス	6.3%	5.7%	5.2%	4.7%	4.6%	4.8%
施設サービス	18.0%	18.7%	19.8%	18.6%	18.5%	19.6%

資料：『見える化システム』（平成30年～令和2年は実績値、令和3年～5年は推計値）

2 各種調査結果から見える地域課題

本計画の策定にあたり「アンケート調査」、「関係団体等へのヒアリング」を実施した結果、大きく分けて6つの地域課題が抽出されました。

(1) 世代や対象を超えた取り組み

- ・関係団体等ヒアリングでは、特に8050問題に関する意見が複数みられるなど、世代や対象を超えた幅広い支援のニーズがあることが分かりました。
- ・全国的にも「包括的相談支援事業」をはじめ、世代や対象を超えた相談支援体制の構築や地域づくりを推進する動きもあります。一方で、当別町では地域包括支援センターが中心となり、かねてから福祉総合相談としてワンストップでの相談支援体制づくりを目指し取り組んではきましたが、ヒアリング調査では地域包括支援センターに対する要望なども複数みられました。
- ・在宅介護実態調査では、老々介護の実態も一部明らかになりました。
- ・今後は、よりワンストップの包括的相談支援体制を強化するため、専門職・機関の連携や協働の推進、地域包括支援センターへの支援などが課題だと考えられました。

(2) 暮らしを支える介護・医療体制の整備

- ・関係団体等ヒアリングでは特に、グループホームの事業所が廃止することに対する不安や、看取りも含めた医療体制の整備を求める意見が複数みられました。
- ・健康とくらしの調査では、日常生活や健康のために必要な行政や民間サービスが概ね提供されているという認識について、「あまり思わない」「全く思わない」と思っている人が2割以上みられた一方、ケアマネジャーや地域包括支援センターなどの専門職や専門機関を相談窓口・相談先として認知している人が少ない傾向がみられました。
- ・介護・医療の提供体制のさらなる整備や、その周知が課題だと考えられました。

(3) つながり合い、支え合う地域づくり

- ・関係団体等ヒアリングではボランティアのマッチングや高齢化といった課題や、高齢者クラブなどに参加していない人の孤立の問題を指摘する意見がみられました。
- ・健康とくらしの調査では「近所づきあい」について、「立ち話程度のつきあいはしている」が最も多く、「生活面で協力しあっている人もいる」は2割程度と少ない傾向がみられました。また、「各種グループ・活動と参加頻度」について「ボランティア」に参加していない人の割合が6割程度と半数以上を占めていました。
- ・住民同士がつながり合い、支え合う地域づくりのための方策として、今ある資源の活用やさらなる周知等に取り組むことが課題だと考えられました。

(4) 健やかに自分らしく暮らせるまちづくり

- ・関係団体等ヒアリングでは、高齢者クラブの会員数の減少やサロン活動のマンネリ化などの現状、移動支援の必要性に関する意見が複数みられました。
- ・健康とくらしの調査では、全体的に年齢が高くなるにつれ、健康状態が「あまりよくない」「よくない」と感じている人の割合が高く、外出の頻度も減少している傾向がみられました。
- ・健康づくり活動や趣味等の「グループ活動」に4割以上が、参加者として参加したいと考えている傾向がみられ、参加したい意思をもっていながらも参加できていない人も一定数存在していると考えられました。
- ・今後は外出支援、介護予防に関する取り組みや、孤立を防ぐためのサロン活動など社会参加に関する活動への支援、周知が課題だと考えられました。

(5) 認知症の方とその家族への支援

- ・関係団体等ヒアリングでは、認知症カフェや家族会、認知症地域支援推進員の活動の周知等の必要性に関する意見がみられました。
- ・健康とくらしの調査では、「物忘れが多い」と感じている人の割合が4割程度みられた一方、「認知症に関する相談窓口」を知らない人が6割程度、「認知症サポーター養成講座」等の受講経験がない人が7割を超えていました。
- ・今後は、認知症初期集中支援チーム、認知症地域支援推進員、認知症カフェなどの活動への支援と、成年後見制度などの制度も含めたさらなる周知が課題と考えられました。

(6) もしものときの支援体制整備

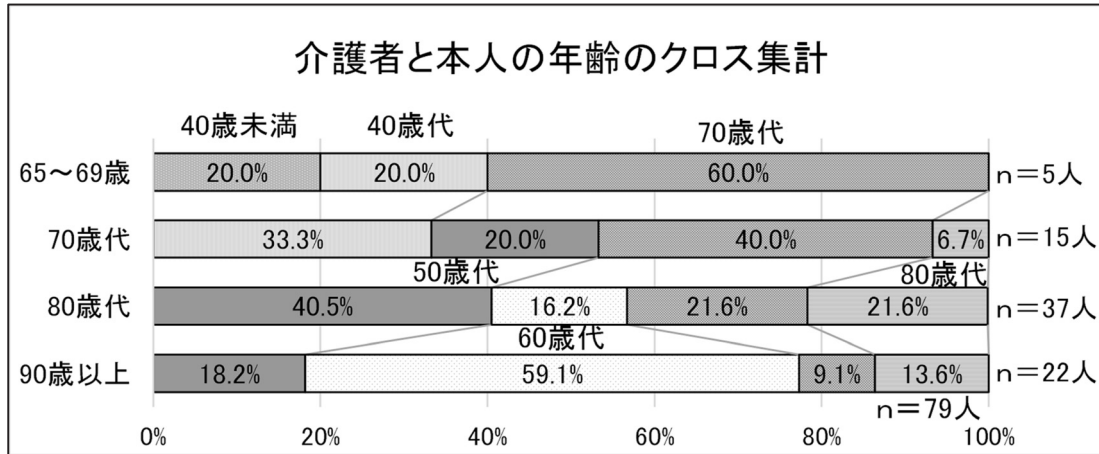
- ・健康とくらしの調査では、「訓練の行事があるが参加していない」「地域に訓練の行事がない」を合わせると6割を超えていたほか、避難場所・経路共に把握していない人が1割以上、行政からの避難指示等があっても、「多分避難しない」「避難しない」と考えている人も、合わせて1割程度みられました。
- ・関係団体等ヒアリングでは、地域福祉支援台帳の活用や訓練の必要性を指摘する意見がみられました。
- ・新型コロナウイルス感染症について、サロン活動、行事等への影響や高齢者の認知機能の低下を懸念する意見が複数みられました。
- ・今後は、訓練の実施や避難場所等の情報提供、また感染症対策に関する取り組みの実施と周知などが課題だと考えられました。

○ 各種調査結果の抜粋

介護者

・在宅介護実態調査：「本人の年齢別・主な介護者の年齢」

⇒介護者の年齢が80歳代で、本人の年齢が80歳以上のケースも一定数みられ、老々介護の実態が明らかになりました。

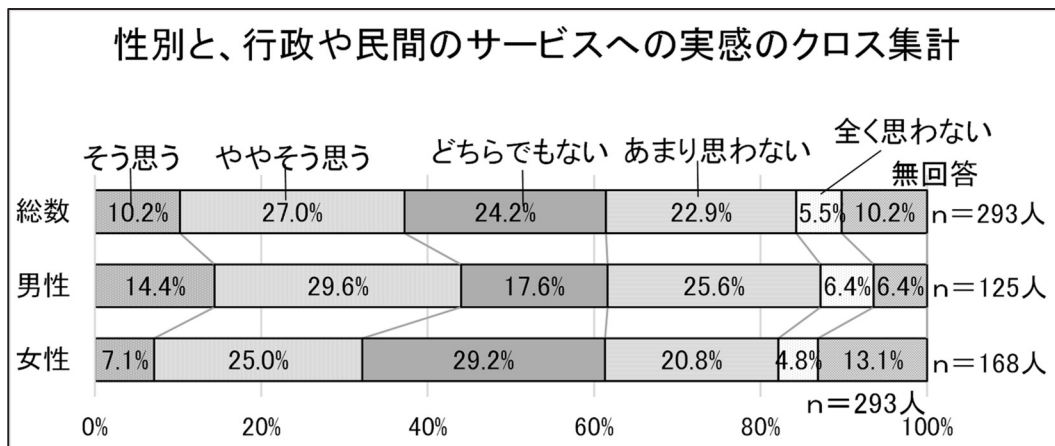


※縦軸：本人の年齢 横軸：介護者の年齢

日常生活や健康のために必要な行政・民間サービスへの認識

・健康とくらしの調査：「あなたが日常生活や健康のために必要なことは、行政や民間のサービスによって、概ね提供されていると思いますか」

⇒全体的に「そう思う」「ややそう思う」を合わせた割合が約4割を占めていた一方、「あまり思わない」「全く思わない」を合わせた割合が約3割を占めていました。



相談先、窓口の認識

・健康とくらしの調査：「あなたに何か困りごとがあったときに相談できる人や窓口はありますか」（複数回答可）

⇒「同居家族」「別居の子ども」や親せきなどが主な相談先となっていました。

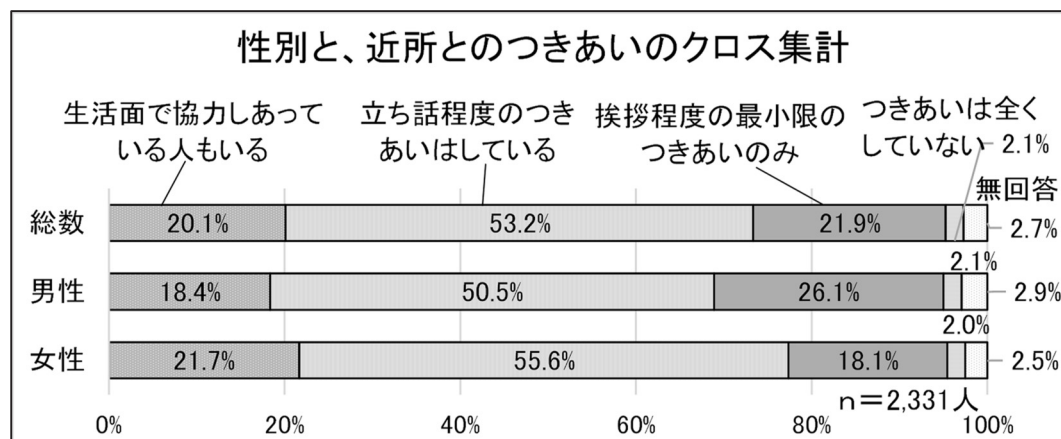
あなたに何か困りごとがあったときに相談できる人や窓口はありますか。（複数回答可） n = 2,331													
	総数	同居家族	別居の子ども	兄弟姉妹・親戚・親・孫	近隣・友人	自治会・町内会・老人クラブ	社会福祉協議会・民生委員	ケアマネジャー	医師・歯科医師・看護師	地域包括支援センター・役所・役場	その他	そのような人はいない	無回答
総数	2,331	1,487	1,106	891	507	97	156	61	262	177	20	91	86
	100.0	63.8	47.4	38.2	21.8	4.2	6.7	2.6	11.2	7.6	0.9	3.9	3.7
男性	1,100	760	462	381	202	61	68	23	133	82	11	58	36
	100.0	69.1	42.0	34.6	18.4	5.5	6.2	2.1	12.1	7.5	1.0	5.3	3.3
女性	1,231	727	644	510	305	36	88	38	129	95	9	33	50
	100.0	59.1	52.3	41.4	24.8	2.9	7.1	3.1	10.5	7.7	0.7	2.7	4.1

※上段が人数（単位：人）、下段が（割合：％）

近所づきあい

・健康とくらしの調査：「あなたは、地域内のご近所の方とどのようなおつきあいをされていますか」

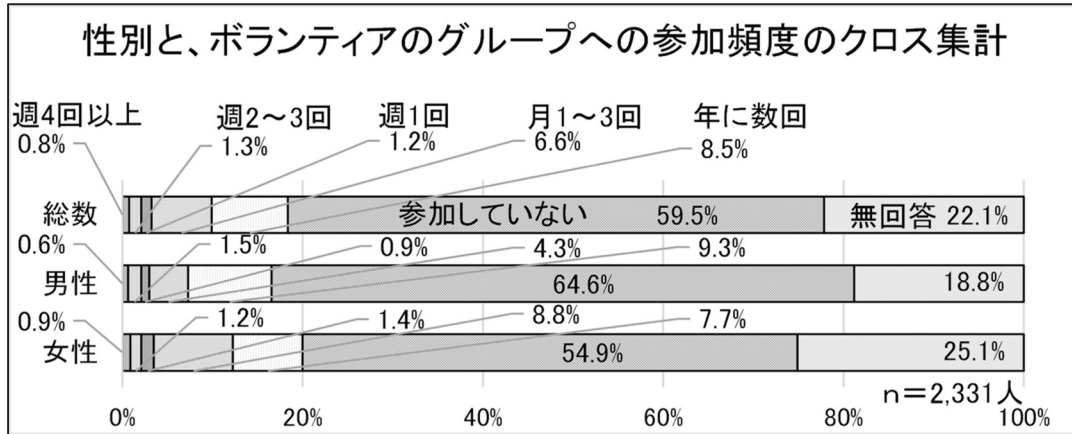
⇒全体的に「立ち話程度のつきあいはしている」が最も多く、また男性の方が女性に比べ、「挨拶程度の最小限のつきあいのみ」の割合が高い傾向がみられました。



ボランティアグループへの参加頻度

・健康とくらしの調査：「あなたは下記のような会・グループにどのくらいの頻度で参加していますか」

⇒全体的にボランティアグループに「参加していない」が最も多く、また男性の方が女性に比べ参加していない人の割合が高い傾向がみられました。



サロンへの参加期間

・健康とくらしの調査：「通いの場（サロン）への参加期間はどれくらいですか」

⇒「無回答」「参加したことがない」の割合が高く、合わせて8割を超えていました。

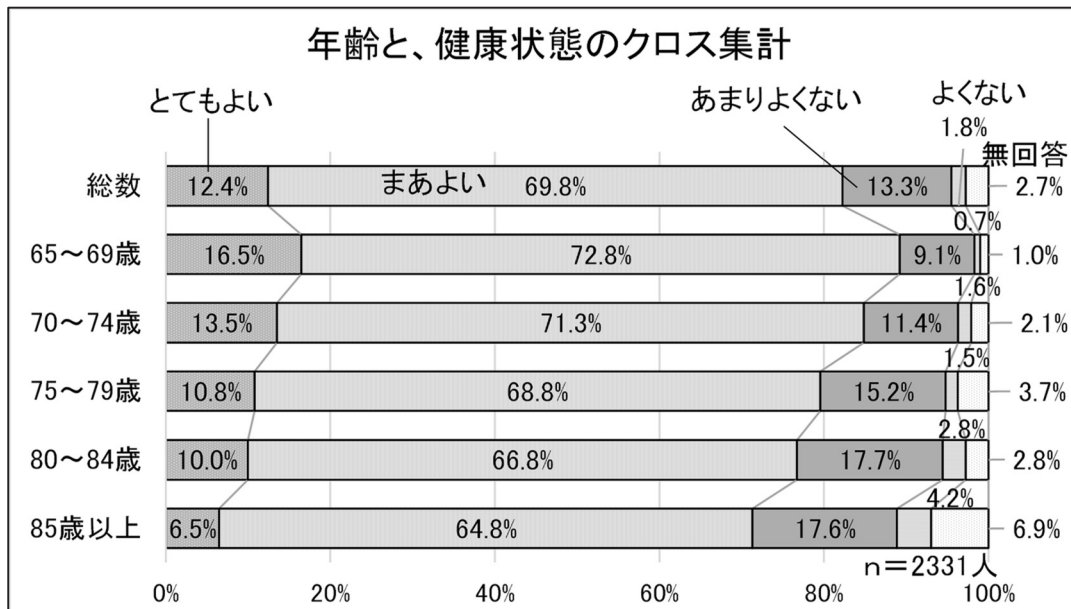
通いの場（サロン）への参加期間はどれくらいですか。		※ n = 282									
	総数	参加1年未満	参加1~2年未満	参加2~3年未満	参加3~4年未満	参加4年以上	不明	参加しているが期間は	参加していたがやめた	参加したことがない	無回答
総数	282	6	2	1	2	21	9	9	162	70	
	100.0	2.1	0.7	0.4	0.7	7.4	3.2	3.2	57.4	24.8	
男性	117	3	1	-	-	6	3	2	80	22	
	100.0	2.6	0.9	0.0	0.0	5.1	2.6	1.7	68.4	18.8	
女性	165	3	1	1	2	15	6	7	82	48	
	100.0	1.8	0.6	0.6	1.2	9.1	3.6	4.2	49.7	29.1	

※上段が人数（単位：人）、下段が（割合：％）

健康状態

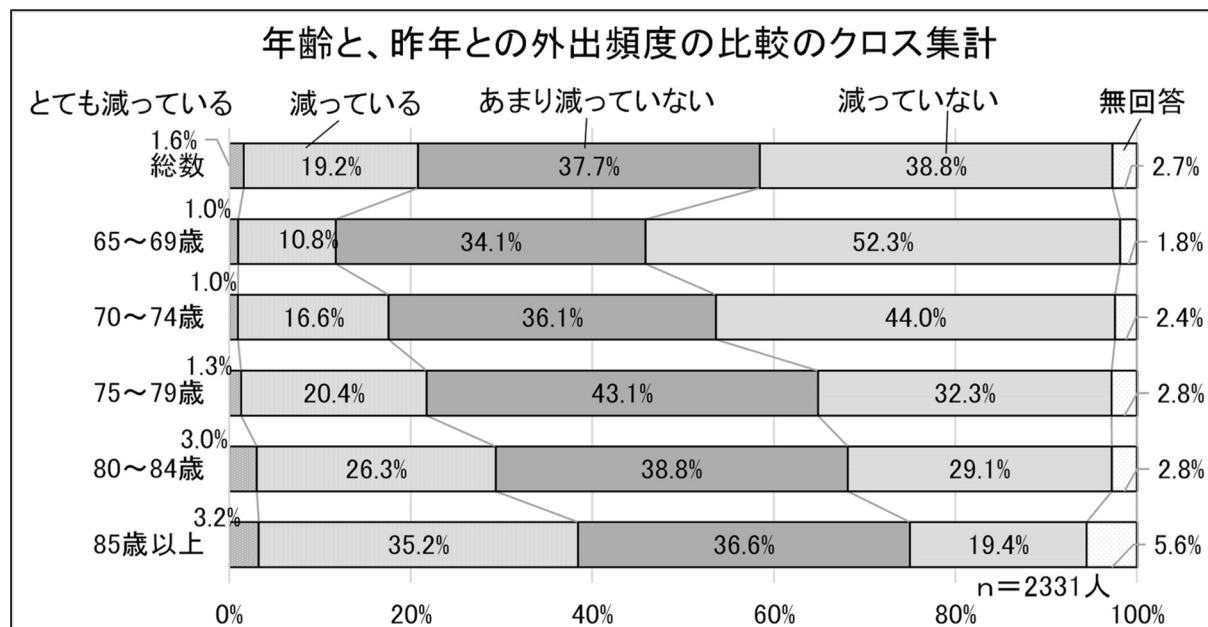
・健康とくらしの調査：「現在のあなたの健康状態はいかがですか」

⇒全体的に「まあよい」が最も多く、年齢が高くなるにつれ「あまりよくない」「よくない」の割合が高くなる傾向がみられました。



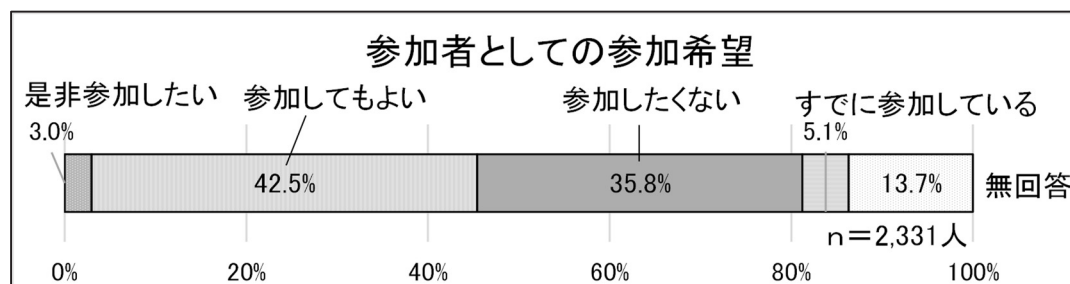
外出頻度

・健康とくらしの調査：「昨年と比べて外出の回数は減っていますか」
 ⇒年齢が高くなるにつれ「とても減っている」「減っている」の割合が高くなる傾向がみられました。



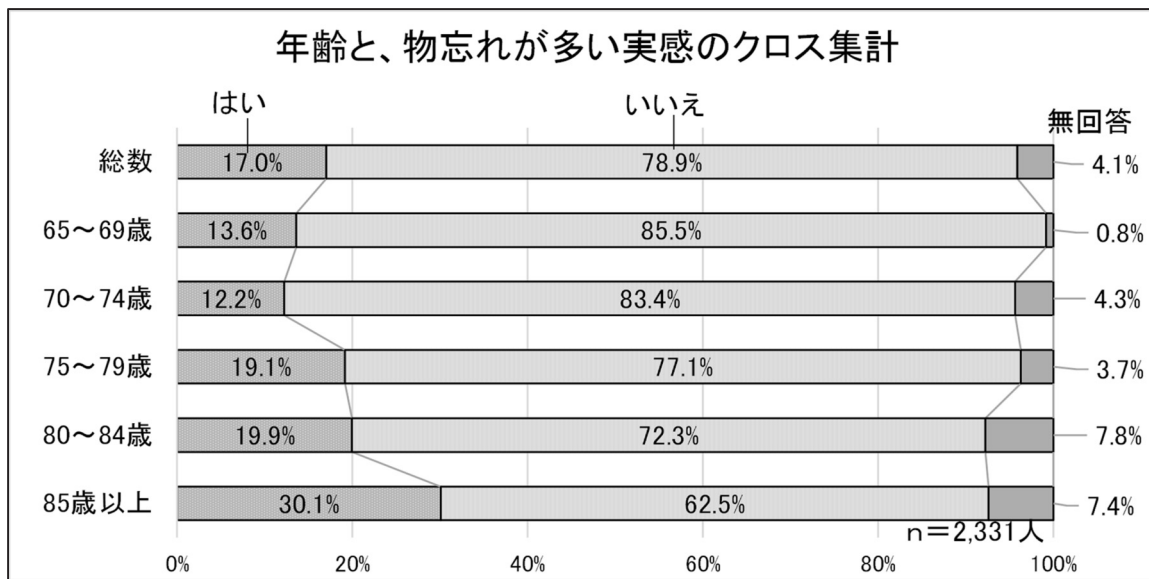
地域の活動への参加希望

・健康とくらしの調査：「地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加したいと思いますか」
 ⇒4割以上が、参加者として参加したいと考えている傾向がみられ、参加したい意思をもちながらも参加できていない人も一定数存在していると考えられました。



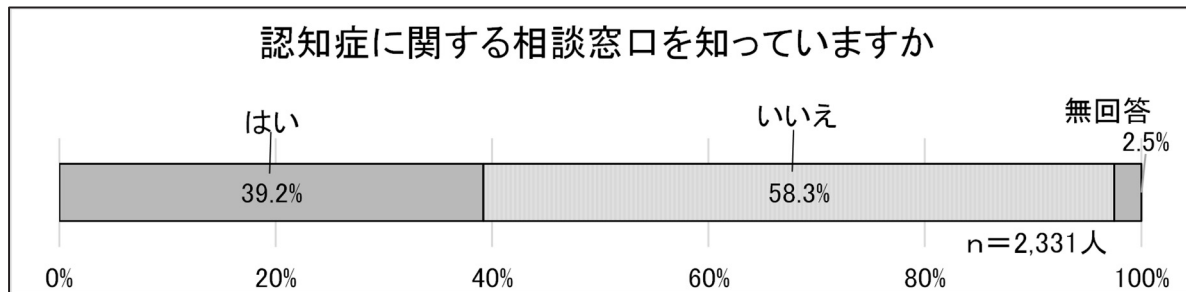
物忘れの実感

・健康とくらしの調査：「ほかの人より物忘れが多いと思いますか」
 ⇒年齢が高くなるにつれ「はい」の割合が高くなる傾向がみられました。



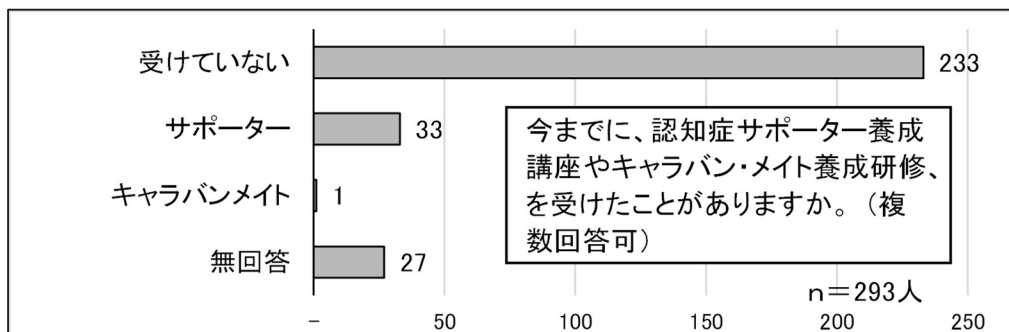
認知症に関する窓口の認知度

・健康とくらしの調査：「認知症に関する相談窓口を知っていますか」
 ⇒6割近くが「いいえ」と回答するなど、相談窓口を知らない人が多い傾向がみられました。



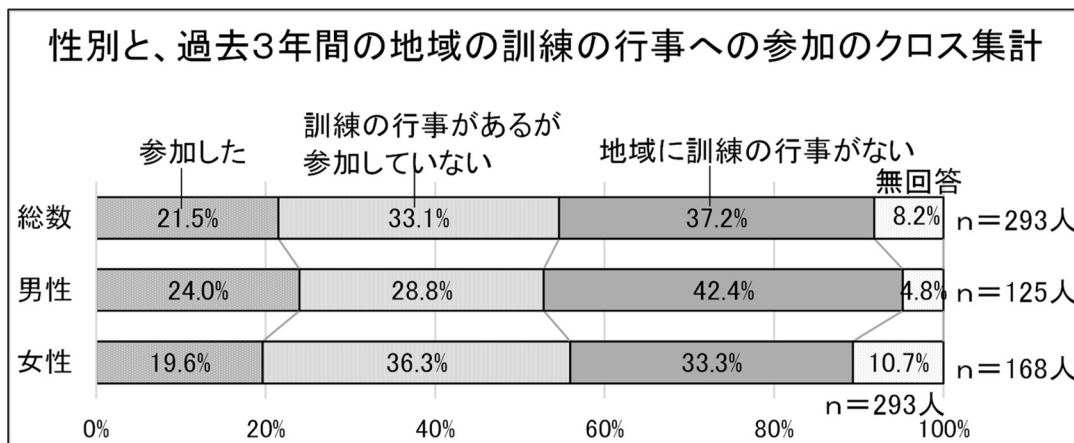
認知症に関する講座・研修の受講経験

・健康とくらしの調査：「認知症サポーター養成講座などの受講したことがありますか」
 ⇒養成講座や研修を受講していない人が多い傾向がみられました。



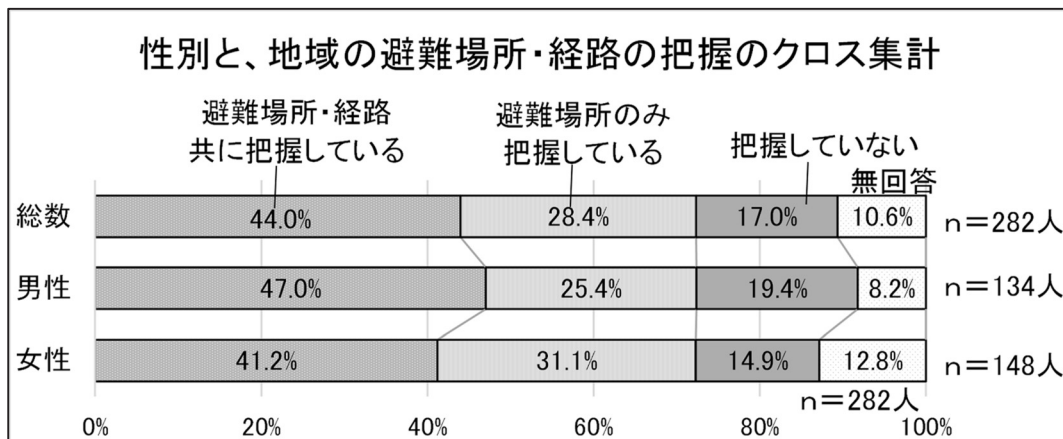
地域の訓練への参加状況

- ・健康とくらしの調査：「過去3年間に地域の避難訓練など、災害や緊急時の訓練の行事に1回以上参加しましたか」
- ⇒「訓練の行事があるが参加していない」「地域に訓練の行事がない」を合わせると6割以上を占めていました。



避難場所・経路の認知度

- ・健康とくらしの調査：「あなたは地域の避難場所やそこまでの経路を把握していますか」
- ⇒避難場所・経路共に把握していない人が1割以上を占めていました。



避難の意思

・健康とくらしの調査：「災害のとき、行政機関から『避難準備・高齢者等避難開始』が発令されたらすぐに避難しますか」

⇒「多分避難しない」「避難しない」を合わせて1割程度を占めていました。

